

僕とパッション

中野 八 伯
(農学部附属農場)

はじめに

唐湊果樹園では、常緑果樹、落葉果樹のほかに最近ではマンゴーやパッションフルーツなどの熱帯果樹を導入し、その栽培・管理を行っています。本研究発表では私が一年を通して行ってきたパッションフルーツの管理について述べていきたいと思えます。

パッションフルーツとは

パッションフルーツ (*Passiflora edulis* Sims) はブラジル原産のトケイソウ科の常緑つる性多年生草本果樹であり、霜に弱く、0°C以下の気象条件では生育が困難であることから、熱帯から亜熱帯地方にかけて分布している。我が国では南西諸島を中心とした南九州以南が主な栽培地域となっており、相対的に見て、国内においてはムラサキクダモノトケイソウの栽培が主流となっているが、昨今、奄美大島を始めとしてムラサキクダモノトケイソウとキイロクダモノトケイソウの交配種である、サマークイーン、ルビースターといった品種の台頭が目立つ。当果樹園において導入しているのもこれらの品種である。

パッションフルーツは、春から夏、秋から冬というように年に2回の収穫が可能である。パッションフルーツの生長は地温の上がる4~9月までが旺盛となり、それ以降地温が下がるにつれて緩慢となるため、果実の品質は夏果の方が優れている。果実の糖度は16.0~17.0%と高く、また酸度は2.0~3.0%と低い(夏果の場合)。生食もできるが、その独特な香りや可食部の色合いから一般的にはジュースに加工される。パッションフルーツは、青い空、白い砂浜、やしの木、コバルトブルーの海を彷彿とさせるトロピカルな食味と風味を持ち合わせた果物であると言える。

唐湊果樹園における栽培・管理

(1)整枝 (主幹形整枝)

パッションフルーツはつる性草本であるため、棚仕立てに整枝する必要がある。あらかじめ挿し木で増殖して1m弱ほどまでに育苗しておいた苗を、秋に定植し、誘引を行いながら支柱にそって伸ばし、先端が支柱上部に達したら、棚面にそって伸ばし、誘引していく。主枝をまっすぐ伸ばすために毎日のチェックを欠かさず、必要であれば麻ひもを用い、誘引をしなければならない。

(2)剪定

収穫後、放置しておくとし梢がどんどん伸び、過繁茂となるため、翌年の減収を免れ得ない。よって、収穫後は剪定を行う。夏果終了後は、秋果や冬果の着果を促すために密植部分の枝を間引く程度にとどめ、冬果終了後の剪定は、強剪定(結果枝を3節残す)する。

(3)受粉

受粉は開花直後に行う。唐湊果樹園にあるルビースターとサマークイーンは自家受粉であるので花粉を指で採り、3本ある柱頭のうち2本に花粉を施す。トケイソウの花は開花してその日のうちにしぼんでしまうため、当然のことながら受粉作業はその日のうちにしなければならないが、午前中に受粉を行おうとしても花粉を採取しにくいので、花粉の良く採れる14時以降に受粉をするようにした。

(4)摘果

1結果枝に対して、4~5個結果させる。それ以上になると後にできた実ほど、小果となる。

(5)収穫

パッションフルーツの収穫は実に簡単で、完熟した果実は落下するため、それを拾い集める。また、着果している果実でも8分から9分ほど着色しているものは軽く下から手のひらで持ち上げれば、結果枝から離れる

ので収穫時期の判別は容易である。

(6) 土壌管理

パッションフルーツは比較的多雨な地域が原産地であることから、土が乾燥しない程度の適度な灌水を心掛けた。過度な乾湿を避けるために、敷き藁による涵養機能を利用した。

施肥は、基本的には春・夏・秋の3回とされているが、パッションフルーツは肥料を多く与えすぎると過繁茂となり収量低下を招くため、樹勢を見ながら調整する。私にとって施肥に関してはまだまだわからないことが多いため、これから知識と経験を重ねていく必要がある。

(7) その他

前述したが、パッションフルーツは(Ⅲ) 熱帯果樹であるのでC気候区における冬の低温に弱い。加温機の設置されていない当果樹園のビニルハウスにおけるパッションの栽培は、開閉によるハウス内の温度管理が最も重要であり、5～30℃の範囲内で温度維持できるよう極め細やかな管理が必要である。また、果実成熟期においては、30℃を超えると早期落果を起こすため、換気をするなどして気温の上昇を抑制する。

おわりに

唐湊果樹園に赴任して以来、約一年が経ようとしています。今のところ、パッションフルーツには目立った病害が現れておりません。品質向上や病害虫の予防を徹底するためにこれから研究を重ねていきたいと著者は考えております。また、果樹に関しては、結実までの一連の作業を一つとして見るのが重要であるのでそのような俯瞰する眼差しをはやく養えるよう、日々自己省察を重ね、精進していければと思っております。

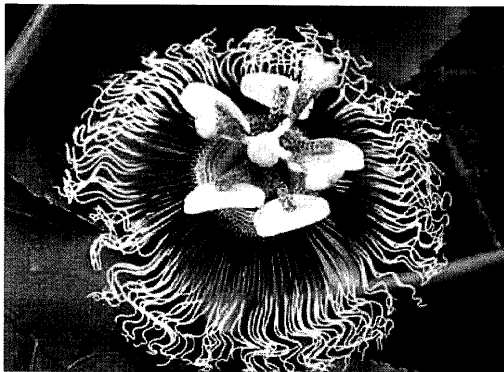


図1：花



図2：雄しべと雌しべ

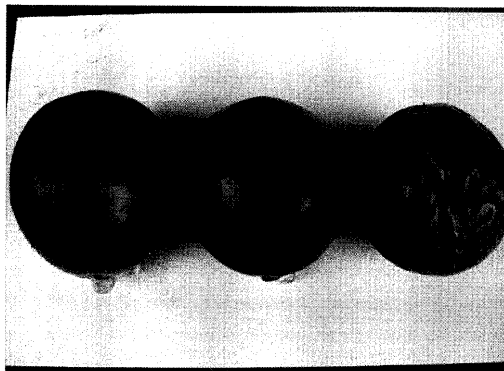


図3：左から) 未熟果, 完熟果, 食べ頃



図4：棚仕立ての様子 (2003年10月2日定植)

【参考文献】

- 「果樹園芸大百科 17 熱帯特産果樹」 ●農山漁村文化協会 2000年3月25日第1刷発行 107～122頁
- 「熱帯果樹と樹木作物」 岸本修・石畑清武共編 養賢堂 1996年5月20日第1版発行 199～216頁
- 「果樹栽培指針」 鹿児島県農政部 2000年3月発行 471～485頁
- 「南九州産業生物遺伝資源図説」 鹿児島大学遺伝資源研究プロジェクト 12頁